

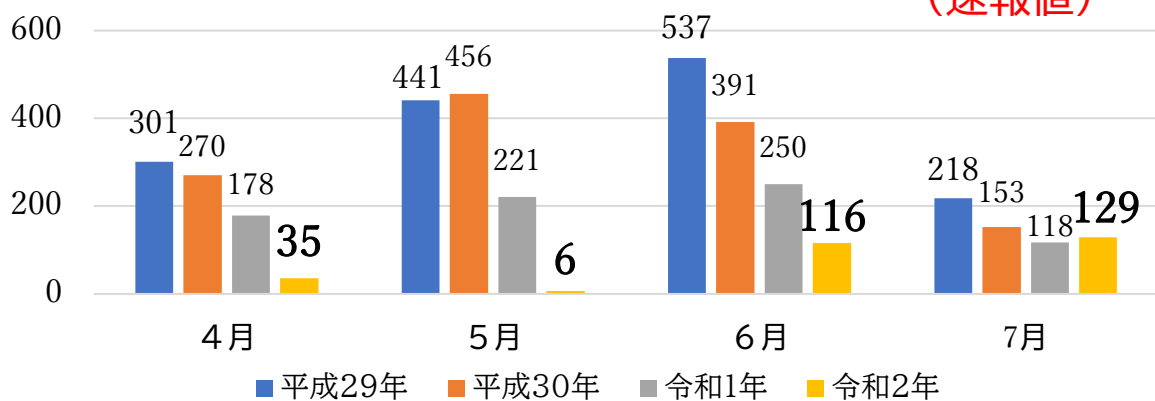
学校改革！教員の時間創造プロジェクト

ニュースレター 令和2年度（2020年度）第4号

休校から始まった1学期。いつも以上に多忙な一学期を過ごされたのではないかと思います。夏休みもいつもより短く、教育相談などもあり、なかなかゆっくりできなかったかもしれません。もうすぐ2学期。学校が始まると、楽しくも忙しい毎日を送られることでしょう。そんな先生方に、気分だけでも…と背景を海にしてみました。ほっと一息つかれる時にでも読んでいただけると幸いです。

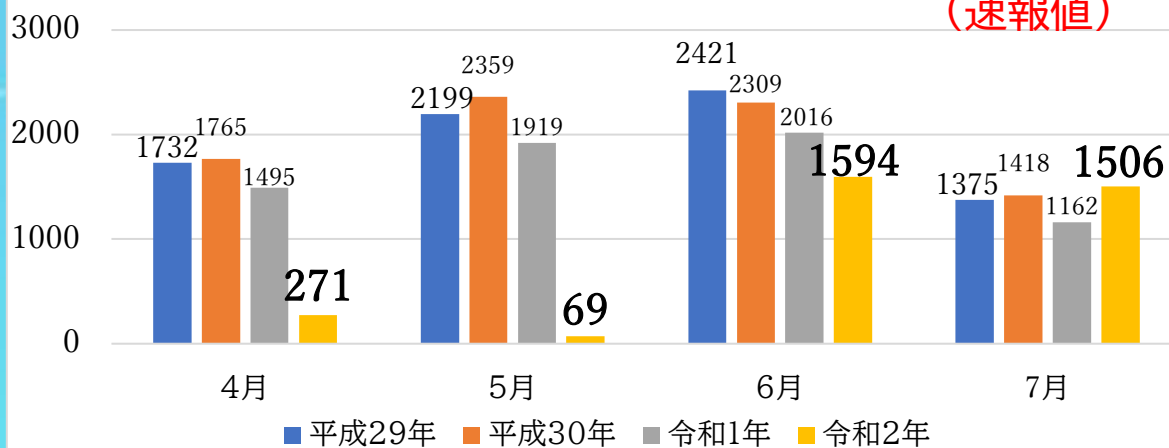
各月時間外80時間超の人数推移

(速報値)



各月時間外45時間超の人数推移

(速報値)



休校だったから…休校だったけど…

左のグラフは、平成29年から令和2年までの、時間外80時間超の人数推移(4月～7月)と、45時間超の人数推移を示したものです。令和2年4月と5月は、前年度までと比べると大幅に減っています。これは、コロナウイルス感染拡大防止のため休校になったことが要因であると考えられます。しかし7月の45時間超の人数を見ると、過去3年間を超えています。7月いっぱい授業が行われたためとも言えますが、このままいくと、2学期以降コロナ前の状態に戻ってしまうのではないかと危惧しています。

熊本市の規則※では45時間だけど、過労死ラインと言われる80時間に近づくほど、健康障害のリスクは高まるよね。
自分自身の健康のためにも、少し時間を意識してみようかな。



目標になっているから、ではなくて自分の健康や、自分の時間を充実させるためと思うと、意識して取り組もうと思えてきますね。



※熊本市の規則：「教職員の業務量の適切な管理等に関する規則」

第3回プロジェクト会議が開催されました



第3回プロジェクト会議では、新プログラムに向けての協議を行いました。

目標については、これまで勤務時間外の在校時間に関する数値目標を掲げていましたが、新プログラムでは、休暇に関する目標を加えることを検討しています。稼業日に休みを取りにくい先生方が、長期休業中などに意識して自分自身のリフレッシュの時間をとれるくらい、ゆとりある生活を送ってほしいという思いからです。

部活動については、国の動向を注視しながら今後も検討を重ねていく方向です。

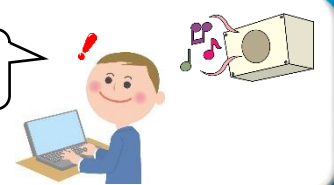
会議の最後に、「働き方改革で業務は削減されてきたが、最後は個人個人、一つ一つの学校がどうするかを真剣に考えることが大切。」という学校メンバーからの声もありました。取組と同時に意識の改革も進めていく必要性を、改めて感じたところです。

大きく変えると「大変」ですが、これならできるかも…というちょっとしたことから取り入れてみるのはどうでしょう。例えば…

学校全体で

勤務時間終了を知らせる音楽を、校内放送で流す。

あ、退勤時刻だ。



学年単位で

「今日何時に帰る？」と、確認し合い帰る時間を意識しあう。

今日は18時に帰る日だね。



個人で

子どものノートやシートにコメントを書くのを、時にはシールやスタンプを活用する。(がんばったねスタンプ等)



先生方の中には、「学級担任は休めない!」「来週の授業準備は土日に学校に出てきてしなくては!」と思われている方もいらっしゃるかもしれません。でも、「休みの日は休む!と割り切れるようになってからの方が、仕事の時に集中でき、充実もしてきた。」という声も聞きます。意識を変えていくと、少しずつ働き方も変わっていくということかもしれませんね。

2学期も先生方が子どもたちと充実した毎日を過ごされますよう、教育委員会事務局として、時間創造の取組を進めていきます。

